

4. 広葉樹材の現在の取引価格【調査結果】

(市場調査)

令和3年4月から令和4年1月にかけて、広葉樹材を取り扱う奈良県内の市場（桜井木材協同組合：調査回数10回、奈良県銘木協同組合：調査回数1回）と岐阜県内の市場（株式会社小林三之助商店：調査回数1回）において、樹種名、規格（直径、材長）、落札価格を、木口面に貼られた伝票や落札結果から調べました。

主な樹種ごとの平均原木単価（円/㎡）と原木単価の幅、平均末口径（cm）と末口径の幅、平均材長（m）と材長の幅は次ページの表のとおりになっていました。それぞれの樹種を代表する平均原木単価ではなく、あくまでも調査を実施した市場における取引事例です。

取扱量の多かったサクラ、ホオノキ、ケヤキ、トチノキについて、価格と末口径の関係をみたところ、下図のように直径が大きくなるに従って価格も高くなる傾向がありました。しかし、材長や通直性、木目、色味、空の有無など様々な要因が価格に影響し、末口径が小さくても高値で取引される事例もあります。

また、市場で扱われている原木の材長は、主に2.4m～4m、5m、6mでした。

(聞き取り調査)

令和2年7月から令和4年1月にかけて、奈良県内の市場関係者及び岐阜県内の市場関係者から聞き取りを行ったところ、高く売れる広葉樹としては、

トチノキ：空があり、材色が白色かピンク色。材色等は材にしてからの判断になる。（需要増加）

ケヤキ：樹齢200年を超える本ケヤキ。（需要減少）

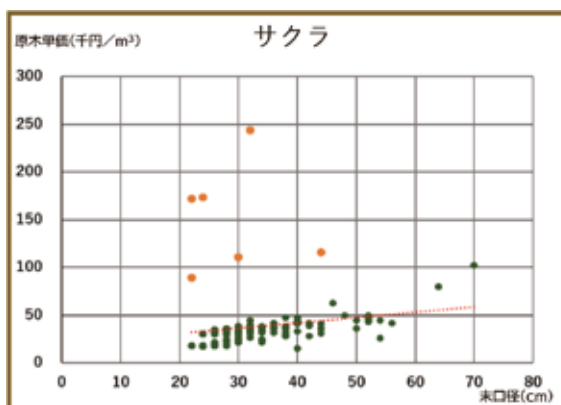
キリ：直径70cm以上は琴や家具に利用。10～15万円/㎡で取引されている。（需要減少）

成長が早く、数十年で材として利用可能（＝早生樹）

等があげられ、空があるものや欠点のない材は、通常の2～3倍の値段で取引されています。

高値の事例として、川上村産トチノキ（空がある）が100万円/㎡、ケヤキが20万円/㎡があるほか、ホオノキの真っ直ぐで年輪の細かいものは、刀鞘としての需要があることから、20～30万円/㎡の高値で取引されることもあるそうです。

原木単価と末口径の関係



●：奈良県内市場の原木単価 ●：岐阜県内市場の原木単価

